

AutoSign 取扱説明書

サインツール自動売買化EA（MetaTrader 4 / MetaTrader 5 共通）

MT4版 Version 2.34 / MT5版 Version 1.10

1. 概要

AutoSign は、MetaTrader 上で動作するエキスパートアドバイザー（EA）です。お使いのサインツール（インジケーター）が**チャートに描く矢印を読み取って、自動でエントリー・決済**します。サインツールを「目」、AutoSign を「手」として使うイメージです。

- 手持ちのサインツールをそのまま活かせる（手法の変更・買い替えは不要）
- **サインツール側のプログラムを書き換える必要はありません**
- 矢印・バッファ・アラートなど6つの検知方式に対応
- 決済のしかたを3パターンから選択可能
- 損切り・利確・スプレッド制限・ドテン・トレーリングストップに対応
- プログラミング不要。パラメーターを入力するだけで動作

AutoSign は売買サインを生成しません。エントリーの判断は、お使いのサインツールが行います。AutoSign が担当するのは「執行の自動化」のみです。成績はサインツールの精度と設定に依存します。

2. 動作環境・導入方法

- 対応プラットフォーム：MetaTrader 4 / MetaTrader 5
- 対応OS：Windows（Windowsの機能であるDLLを使用するため、Mac版では動作しません）
- 種別：エキスパートアドバイザー（EA）
- 通貨ペア・時間足：制限なし。複数チャートでの同時使用可

導入手順

1. メニュー「ファイル」→「データフォルダを開く」を選択。
2. **MT4の場合**：MQL4 → Experts フォルダに **AutoSign.ex4** を入れる。
MT5の場合：MQL5 → Experts フォルダに **AutoSign.ex5** を入れる。
3. MetaTrader を再起動、またはナビゲーターを右クリックして「更新」。
4. ナビゲーターの「エキスパートアドバイザー」に **AutoSign** が表示されれば導入完了。

事前に済ませる許可設定

1. 「ツール」→「オプション」→「エキスパートアドバイザー」タブを開く。

2. 「**自動売買を許可する**」にチェック。
3. 「**DLLの使用を許可する**」にチェック。
4. ツールバーの「**自動売買**」**ボタン**を押して緑（オン）にする。
5. EAをチャートに入れる際、プロパティの「全般」タブで「**自動売買を許可する**」にチェック。

この5つのうち1つでも欠けていると発注されません。動かないときは、まずここをご確認ください。

3. 最初に行うこと：サインツールのタイプ判別

AutoSign の設定は、**お使いのサインツールがどの方法でサインを描いているか**で変わります。まずタイプを判別してください。判別さえできれば、あとは番号を入力するだけです。

タイプA：オブジェクト型

矢印が「図形オブジェクト」としてチャートに置かれるタイプです。最も一般的です。

1. サインツールを載せたチャートを開く。
2. **Ctrl** + **B** を押す（または右クリック → 「表示中のライン等」）。
3. 一覧に矢印（Arrow）が並んでいれば**オブジェクト型**です。

タイプB：バッファ型

矢印がインジケーター内部のデータ（バッファ）として描かれるタイプです。

1. サインツールを載せたチャートを開く。
2. **Ctrl** + **D** を押す（データウィンドウが開きます）。
3. サインが出ている足にマウスカーソルを合わせる。
4. インジケーター名の下に数値が表示されれば**バッファ型**です。サインのない足では空欄になります。

両方に表示される場合は、**オブジェクト型**として設定してください。設定が簡単で、インジケーターのパラメーター設定に影響されないためです。

4. 設定パターンA：オブジェクト型の場合

SignalMode を「**矢印オブジェクトを監視**」に設定します（初期値）。

矢印コードとは

MetaTrader の矢印には、形ごとに番号（Wingdingsコード）が振られています。AutoSign は**この番号で買いサインと売りサインを見分けます**。

まずは初期値のまま試してください

パラメーター	初期値	意味
ObjBuyArrowCode	233	買い矢印のコード（上向き矢印）
ObjSellArrowCode	234	売り矢印のコード（下向き矢印）

233と234は、サインツールで最もよく使われる上下矢印です。多くのツールがこの2つを使っているため、初期値のままで動くケースがほとんどです。

検出されなかった場合に試す番号

ログに検出が出ないときは、下記を上下ペアで順に試してください。`Ctrl` + `B` の一覧で矢印の形を確認し、近い形から試すと早く見つかります。

買い	売り	形の傾向
233	234	標準的な上下矢印（最も多い）
241	242	太めの上下矢印
225	226	細めの上下矢印
217	218	上下の三角
159	160	小さい丸
221	222	その他の記号

その他のパラメーター

パラメーター	説明
<code>ObjNameFilter</code>	オブジェクト名にこの文字を含むものだけを対象にします。他のインジの矢印まで拾ってしまう場合に使用。空欄なら全部が対象。
<code>ObjIncludeTextObject</code>	Wingdingsフォントの文字でサインを描くツールにも対応します。 <code>true</code> のままを推奨。

5. 設定パターンB：バッファ型の場合

SignalMode を「インジのバッファを監視」に設定します。

バッファ型では矢印コードは使いません。インジケーター内部の SetIndexArrow の値を外部から読み取る手段が MetaTrader に存在しないためです。代わりに**バッファ番号**で指定します。

バッファ番号の調べ方

1. **Ctrl** + **D** でデータウィンドウを開く。
2. 買いサインが出ている足にカーソルを合わせる。
3. インジケーター名の下に並ぶ項目のうち、**数値が入っている行が何番目か**を数える。

一番上が**0番**、次が1番、その次が2番です。買いサインの足で一番上の行に数値が入っていれば、買いのバッファ番号は0です。

パラメーター

パラメーター	初期値	説明
BufIndicatorName	(空)	インジケーターの名前。下記参照
BufBuyIndex	0	買いのバッファ番号
BufSellIndex	1	売りのバッファ番号
BufCloseBuyIndex	-1	買い決済のバッファ番号 (-1で使用しない)
BufCloseSellIndex	-1	売り決済のバッファ番号 (-1で使用しない)
BufCheckShift	1	見る足。1 = 確定した1本前の足 / 0 = 形成中の足

BufCheckShift は**1のままと推奨**します。0にすると反応は速くなりますが、形成中の足を見るためサインが消えることがあります。

インジケーター名の入れ方（MT4／MT5で異なります）

MT4の場合： MQL4 → Indicators フォルダからの相対パスを入力します。サブフォルダにある場合はフォルダ名を含めてください。

MT5の場合： データウィンドウに表示されている**短縮名**を入力します。

MT5版の利点： MT5ではチャートに表示中のインジケーターから直接データを読み取るため、パラメーターを変更していても**画面に見えている矢印と必ず一致**します。

MT4版の注意： MT4ではインジケーターを既定パラメーターで読み込みます。**チャート側でインジケーターの設定を変更していると値がずれます**。MT4でバッファ型をお使いの場合は、インジケーターを既定設定のままご使用ください。

6. 決済の設定

サインツールの仕様に合わせて、3パターンから選びます。ここが最も間違えやすい部分です。

パターン1：反対サインで決済する（初期設定）

専用の決済サインがなく、「買いサインが出たら売りを閉じて買いに入る」タイプ向けです。多くのサインツールがこれに当たります。

パラメーター	設定値
ObjCloseBuyArrowCode	234（＝売り矢印と同じ番号）
ObjCloseSellArrowCode	233（＝買い矢印と同じ番号）

初期設定がこの状態なので、そのまま動きます。売り矢印が出ると、買いポジションを決済してから売りで入り直します（ドテン）。

このパターンをお使いの場合、`DotenMode` は `false` のままにしてください。両方を有効にしても動作しますが、挙動が分かりにくくなります。

パターン2：専用の決済サインを使う

エントリーとは別に決済用の矢印を描くタイプ向けです。その決済矢印の番号を入力してください。

決済マークが方向を問わず**1種類しかない**サインツールもあります。その場合は買い決済と売り決済に**同じ番号**を入れてください。1つの矢印で買いと売りの両方を決済します。

パターン3：決済サインを使わない

損切りと利確だけで決済する場合は、両方に `0` を入れてください。決済処理が動かなくなり、ポジションを積み増していく運用もできます。

7. 二重発注を防ぐ設定

サインツールの多くは、価格が動くたびに**矢印をいったん消して描き直します**。これをそのまま拾うと、同じサインで何度も注文が出てしまいます。

AutoSign は二段構えでこれを防いでいます。

- **時間の窓を切る**（MaxSignalBars） — 指定した本数より古い足の矢印は無視します
- **足と方向で重複を排除** — 同じ足・同じ方向では1回しか発注しません

パラメーター	初期値	説明
MaxSignalBars	1	現在の足と1本前の足に出た矢印だけを対象にします

数値を大きくすると古いサインまで拾うようになります。**1 のままを推奨します**。

起動直後の動作について

EAをチャートに入れた足のサインは拾いません。次の足から有効になります。

これは、すでにチャートに描かれている古い矢印で、いきなり現在の価格で約定してしまう事故を防ぐための仕様です。何時間も前に出たサインで今の価格で入ることを避けています。動作確認の際は、EAを入れてから最初の足が変わるまでお待ちください。

8. 売買パラメーター

パラメーター	初期値	説明
LotSize	0.1	発注ロット数
StopLoss	500	損切り幅（ポイント）。0で損切りなし
TakeProfit	500	利確幅（ポイント）。0で利確なし
MaxSpread	30	この値を超えるスプレッドのときはエントリーを見送ります
Slippage	3	許容スリッページ
DotenMode	false	反対サインでドテンするか
MagicNumber	20240916	注文の識別番号
UseTrailing	false	トレーリングストップを使うか
TrailingProfitJPY	1000	含み益がこの額に達したら損切りを前進させます
TrailingDistance	200	トレール距離（ポイント）

MaxSpread にご注意ください。初期値は30です。早朝や指標発表時などスプレッドが広がる時間帯は、この設定で見送られます。

サインは出ているのに発注されない場合、まずここをご確認ください。ログに「スプレッド超過でスキップ」と表示されます。

MagicNumber について：AutoSign は**自分が出した注文だけを決済します**。手動で持ったポジションや、他のEAのポジションには手を出しません。複数チャートで同時にお使いの場合は、チャートごとに異なる番号を設定してください。

9. その他の検知方式

矢印以外の方法でサインを出すツール向けに、4つの方式を用意しています。通常は矢印方式で足りるので、必要な場合のみお使いください。

方式	対象	設定するもの
アラート窓を直接読む	ポップアップアラートを出すツール	BuyTrigger / SellTrigger（売買を表す語）
ログファイル読取	アラートをログに残すツール	同上
ファイル監視	テキストファイルに合図を書き出すツール	SignalFileName
グローバル変数監視	グローバル変数で合図を出すツール	GV_BuyName / GV_SellName

※ ログファイル読取方式は、MetaTrader がログをディスクに書き出すまでに数分の遅延が生じることがあります。スキャルピング用途には向きません。

10. 動作確認とログの読み方

設定が正しいかどうかは、画面下部「ターミナル」の「エキスパート」タブで確認できます。

起動したとき

```
[AutoSign] 矢印オブジェクト監視モード開始 買い=233 売り=234 買い決済=234 売り決済=233 有効範囲=1本
```

この行が出れば正しく起動しています。設定した番号もここで確認できます。

サインを検出したとき

```
[AutoSign] 買いシグナル検出(矢印) コード=233 足=2026.09.09 10:15 obj=...
```

この行が出ていれば、検出は成功しています。あとは発注段階の問題です。

決済したとき

```
[AutoSign] 買い決済シグナル検出(矢印) コード=234 足=...  
決済成功 ticket=...
```

発注を見送ったとき

```
[AutoSign] スプレッド超過でスキップ: 35 > 30
```

見送った場合も理由が残ります。設定のどこでつまづいているかはログで特定できます。

11. うまく動かないときのチェックリスト

起動のログが出ない

- EAがチャートに入っていません。チャート右上のEA名の横が「×」になっていないかご確認ください
- ツールバーの「自動売買」ボタンが緑になっているかご確認ください
- EAのプロパティ「全般」タブで「自動売買を許可する」にチェックが入っているかご確認ください

起動はするが、サインを検出しない

- 矢印コードが違います。第4章の番号を順にお試してください
- EAを入れた足のサインは拾いません。次の足までお待ちください
- `ObjNameFilter` に文字を入れている場合、その文字がオブジェクト名に含まれているかご確認ください
- サインツールがバッファ型かもしれません。第3章に戻って判別し直してください

検出はするが、注文が出ない

- 「スプレッド超過でスキップ」と出ていませんか。 `MaxSpread` を大きくしてください
- 「取引不許可」と出ていませんか。自動売買の許可設定をご確認ください
- 口座に必要な証拠金があるかご確認ください

決済されない

- 決済用の矢印コードが違います。第6章をご確認ください
- 決済対象のポジションがありません。AutoSign が出した注文のみが決済対象です
- `MagicNumber` を途中で変更していないかご確認ください

同じサインで何度も注文が出る

- `MaxSignalBars` を大きくしていませんか。1に戻してください

12. 対応できないサインツール

次のようなサインツールには対応できません。

- 矢印もバッファも使わず、独自の描画方法でサインを表示するもの
- サインを画像として表示するもの
- チャート上ではなく、外部ソフトへ通知するもの

リペイントするサインツールは自動化に向きません。サインが後から消えたり位置が変わったりするタイプです。二重発注は防いでいますが、消えたサインで出た注文を元に戻すことはできません。お使いのサインツールの仕様を事前にご確認ください。

13. 免責事項

AutoSign は売買サインを生成するツールではありません。エントリー・決済の判断は、お使いのサインツールが行います。AutoSign が担当するのは執行の自動化のみです。

本製品の使用によって生じたいかなる損害についても、開発者は責任を負いかねます。実際の運用にあたっては、必ずデモ口座で十分に動作を確認したうえで、余裕資金の範囲でご使用ください。

相場環境やブローカーの仕様、MetaTrader のバージョンによって、動作が異なる場合があります。過去の成績は将来の結果を保証するものではありません。

AutoSign 取扱説明書（MT4版 2.34 ／ MT5版 1.10）